

第3回三重河川流域委員会 議事要旨

日時：H20.11.17（月） 13:30～16:30

場所：松阪市嬉野保健センター

1．開会

2．挨拶（三重河川国道事務所）

3．委員紹介

4．議題

（1）「第2回三重河川流域委員会」の議事要旨の確認

「第2回三重河川流域委員会」の議事要旨について報告を行い、次の項目について訂正を行い了解された。

- ・ 「サギのコロニーは木を枯らすので、河畔林は周辺環境との連続性を保つ意味で重要であることから、上下流を結ぶ回廊という認識で整備計画に反映して欲しい。」については、サギのコロニーも環境上重要であることから、「サギのコロニーは木を枯らすので、」までを削除する。

（2）雲出川行政会議の開催結果報告について

11/10(月)に開催された雲出川行政会議の開催結果について報告した。

（3）雲出川の現状と課題のとりまとめについて

雲出川の現状と課題のとりまとめとして、「雲出川の現状と課題（案）」、「雲出川の現状と課題に対する補足説明」、「雲出川の現状と課題（とりまとめ）」について説明を行い、次のような意見を頂いた。

「雲出川の現状と課題（案）」について

- ・ 環境-2の「河川環境の現状 - 生物 -」に絶滅危惧種等に指定されている魚類も追加して欲しい。
- ・ 概要-3の「人口の推移」のデータが平成12年までとなっているが、新しいデータは追加出来ないのか。
- ・ 治水-1の「治水事業の歴史」を明治以降のもので良いからもう少し年代などが具体的に判るように整理して欲しい。

「雲出川の現状と課題に対する補足説明」について

- ・ 貴重種の確認種数については、外来種との関係もあるので、過去に生息が確認されたが、現在は確認できていない種がいるかどうか把握できる資料の整理が必要である。

「雲出川の現状と課題（とりまとめ）」について

- ・ 河川に生息する生物には、洪水によってできる裸地や砂州などの比較的変動しやすい場所に生息するものがある。しかし、治水整備は洪水などを起こさせないように整備の計画を立てていくことから、環境の保全・再生と相反するものとなる。将来的に、許容範囲の中で洪水を起こすような河川管理が可能なのか。
- ・ 治水の現状と課題 で示されている浸水区域図に流量や降雨量などの情報を示した方がよい。
- ・ 治水の現状と課題 の「超過洪水等への対応」で示されている浸水想定区域図は、概ね何年に1回の大雨により雲出川が氾濫した場合を想定しているかなどの情報を示した方がよい。

(4) 雲出川水系河川整備計画たたき台（骨子）について

雲出川水系河川整備計画たたき台（骨子）として、「治水対策の考え方（案）」、「雲出川水系河川整備計画たたき台（骨子）（案）」について説明を行い、次のような意見を頂いた。

治水対策の考え方（案）について

- ・ 治水対策の比較表に、必要となるコストや整備の効果が発現する時期などについても整理を行う必要がある。
- ・ 公共事業を行う際にはB / Cを評価する。環境の評価は難しいと思うが、治水面や環境面の全てを含んだB / Cの評価についても整理が必要である。
- ・ 雲出橋の基本高水流量が $8,000\text{m}^3/\text{s}$ 、計画高水流量が $6,100\text{m}^3/\text{s}$ ということで、残りの $1,900\text{m}^3/\text{s}$ の調節方法は決定しているのか。
- ・ 現在の開口部による自然遊水地を最大限に利用すると洪水調節効果はどれくらいか。
- ・ 平成16年9月洪水の基準地点雲出橋で約 $4,800\text{m}^3/\text{s}$ というのは、君ヶ野ダムなどの調節量を含んでいると思うが、基準地点雲出橋での実績の流量はどれくらいか。
- ・ 平成16年9月や昭和57年8月の洪水により浸水した開口部の土地利用はどのようになっているのか。
- ・ 宅地防災案では輪中堤をどの様に整備するのか。整備方法によっては地域の発展に影響があると思う。
- ・ 牧・小戸木地区や赤川地区の貯留量が大きく遊水地整備による効果が大きいと思うが、具体的にどこが作りやすいのかという話しになると思う。組み合わせなども必要ではないか。

雲出川水系河川整備計画たたき台（骨子）（案）について

- ・ 流水管理・水利用の目標で「維持流量の一部を回復する」としているが、数値的なものは検討段階ということか。
- ・ 治水、利水、環境、維持管理等の整備を実施する具体的な箇所や方策、整備を実施することによる効果や影響などが具体的に示されないと意見が出せない。
- ・ 環境の整備と保全は、堤防と堤防の間どの範囲で行うのか。また、維持管理では堤防の除草を行うことにより草地を好む昆虫などに影響がある。
- ・ 堤外民地が沢山あって耕作地として利用され、耕作が放棄された箇所は樹林化が進行しているという課題があったが、それに対してはどう対応しているのか。
- ・ 河口部などの環境は、ちょっとした洪水により結構変化してしまう。環境に配慮するには、現況を把握する必要がある、現在、行われている河川水辺の国勢調査などのモニタリングを継続してもらい、現況の把握と連動して自然環境の保全とか再生の計画を作る必要がある。
- ・ 多様な水際環境、砂州・砂礫河原、連続する瀬・淵などの環境の保全や再生は、自然のダイナミクスの中で環境へ配慮を行っていくという方向性を示して欲しい。

（５）その他について

その他として、次の項目について報告した。

- ・ 第４回の三重河川流域委員会は、来年の２月以降に開催する予定である。
- ・ 第５回の三重河川流域委員会は、来年の４月以降としているが年度内の３月の開催を目標としている。

５．閉会